



◀ 更に情報を見たい方は
MONOWEBから



◀ 採用HPは
こちらから

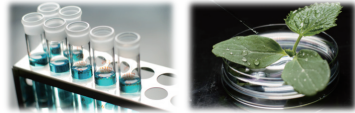
会社概要は〇〇ページをご覧ください

北興化学工業株式会社

Company View Point



北興化学工業株式会社

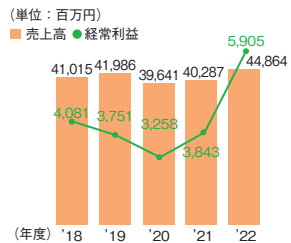


人々の暮らしとともにある化学メーカーとして

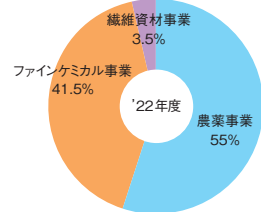
北興化学工業（ホクコー）は1950年に設立。農薬事業とファインケミカル事業の2つの事業展開をし、研究開発から製造、販売までを一貫して手掛けている。農薬事業では、数百品目の製品ラインアップがあり、安全・安心な農作物の安定供給を支えている。一方、ファインケミカル事業では、グリニャール反応をはじめとした様々な合成技術を用い、数多くの新規製品を次々と生み出すことで、医療・健康、情報通信、環境など、幅広い分野に製品を供給し、産業界に貢献している。こうした付加価値の高い製品群は国内はもとより海外でも高く評価されている。

図で見る企業DATA

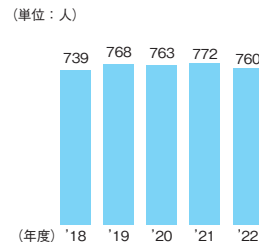
●売上高/経常利益の推移 (連結)



●事業別売上高比率 (連結)

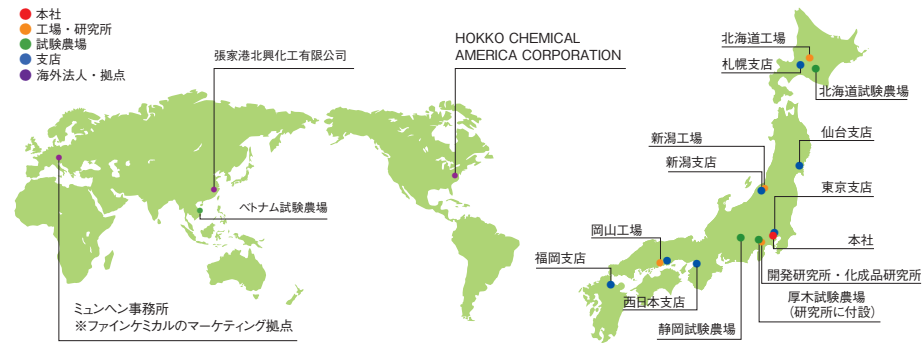


●従業員数の推移 (連結)



拠点

- 本社
- 工場・研究所
- 試験農場
- 支店
- 海外法人・拠点



これまでの事業展開

化学がつなぐ食の安定供給と産業の発展

ホクコーは農業メーカーとして設立以来、「種子から収穫まで護るホクコー農業」をモットーに、安全で優れた農薬を製造販売している。多種多様な野菜や果樹に対応するため、主力の水稲用農薬のほか、殺虫剤や殺菌剤、除草剤など多くの製品を世に送り出し、農作物の安定供給に寄与してきた。また蓄積してきた技術力を背景に、常に新しい農業の研究開発にも積極的に取り組み、農業のリーディングカンパニーとして、日本そして海外の農業を支え続けている。

1972年には、農薬原体の製造に用いるグリニャール反応の技術に応用し、ファインケミカル事業を立ち上げた。グリニャール反応は、多岐にわたる有機化合物の合成に応用され、純度の高い化合物を作ることができるが、大規模に行なうには高度な制御技術が必要とされるため、工業化に成功した企業は世界的にみても数少ない。ファインケミカル事業では、このグリニャール反応を中心に電子材料、医薬品原料・中間

体、各種触媒など様々な化学製品を製造販売し、幅広い分野で貢献している。



北興化学工業

技術力と製品・サービス

確かな技術力と未来へ進む研究力

●農薬事業
1960年代に上市したカスミン剤を始め、多くの製品を製造し販売している。カスミン剤は、現在でも使用されている製品で安全性が高く、稲や野菜・果樹などの病害に効果の高い殺菌剤である。近年では、稲の主要雑草「ノビエ」に対する高い効果と優れた残効性を示すイブフェンカルバゾンを開発し、ウィナー剤として2014年に上市した。その後、カチボシ剤、キマリテ剤、カイリキ剤とラインアップを拡大している。世界40か国以上で同社農薬製品の登録を取得している。

また、同社は農薬の効力を最大限に発揮させるとともに、より安全で、簡単に散布ができる高度な製剤技術を保有し、様々なタイプの製品を提供している。

●ファインケミカル事業
主力製品のホスフィン系有機触媒トリフェニルホスフィン(TPP)を始め、塩化ビニール安定剤原料、工業用・家庭用防霉防カビ剤の製造を開始。1970年代後半からは合成香料原料、医薬品原料・中間体、1980年代には機能性高分子原料などを手掛け、2000年代には自動車排ガス浄化触媒用

原料を発売した。現在は、樹脂、電子材料、医農薬分野などに製品を提供している。2002年に中国江蘇省に設立した張家港北興化工有限公司(子会社)と国内の岡山工場が連携して、グローバルな生産体制を確立している。



マーケットとこれからの展望

強く、豊かなHOKKOへ

「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、全ての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会に提供することを企業理念としている。そしてこの理念の実現に向け、立案した事業計画を着実に実行することにより、持続的かつ安定的な成長を実現し、国内外の産業の発展と豊かな社会づくりに貢献する。

新工場の着工や国内農業営業全社員のJGAP指導員資格取得の推進、品目の高利益率化など売上構造の変革実施をし、収益基盤強化を進めている。また、他社との業務

提携により出荷業務の効率化や、自社原体の海外向け供給体制の再構築を実現し、事業領域の拡張を行い、成長を支える安定したフレームの構築を目指している。

今後も、社内のプロジェクトを通して生産体

制の整備や売上高成長トレンドの確立し、未来を切り拓くため、あらゆる変化に挑戦し続けていく。





◀ 更に情報を見たい方は
MONOWEBから

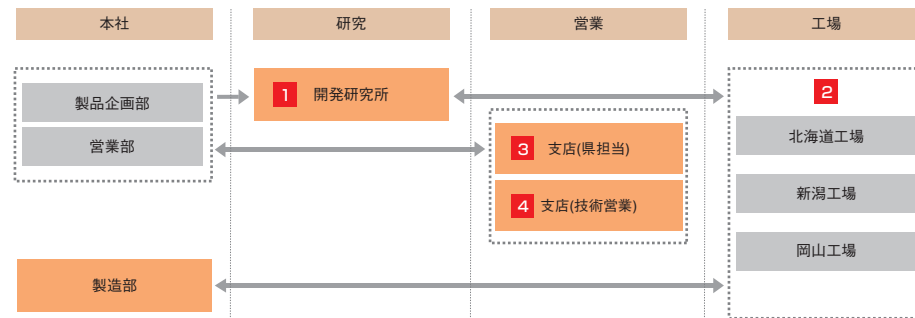


◀ 採用HPは
こちらから

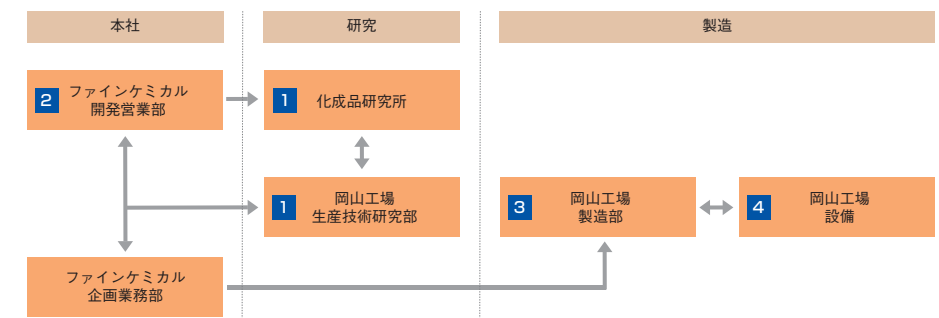
会社概要は〇〇ページをご覧ください

製品の市場化までの流れと職種

農薬事業 ~製品の市場化までの流れと職種~



ファインケミカル事業 ~製品の市場化までの流れと職種~



北興化学工業

1 農薬研究開発

新しい発想のもと創製される農薬は、合成研究から始まり、生物評価、製剤設計、安全性評価などの過程をすべてクリアしなければならない。農薬開発の成功確率は一般に数万分の一と言われるほど高いハードルだ。
さらに今日では、時代のニーズをとらえて、人畜のみならず、環境に対してもより安全な農薬を開発することが使命となっている。



2 製造技術

工場現場で機械を操作し、製品の製造を行う。常に品質向上を目指し、安定的に製品を生産できるよう取り組むことにより、顧客と市場の需要に応えている。



1 ファインケミカル研究

ファインケミカルの研究はラボレベルの合成研究とプロセス研究を行う生産技術研究に分かれている。合成研究は、研究所において製品の合成ルートを確立する役割である。
生産技術研究は、工場内に設けられた中間プラント(中規模の実験設備)において、数十リッターから数百リッター規模の少量の製品製造を担当し、量産プロセスを完成させる仕事である。



2 ファインケミカル営業

営業担当者は製品の開発から製造、販売までの一連の業務に広く関わる。ユーザーの要望を確認し、自社の製品リストから条件に合った製品の提示や、さらなる展開が図れそうな製品を提案する。新たな開発が必要な場合は研究開発部門と連携して試作品を作成し、ユーザーの評価を受けながら改良し製品化を進める。



3 営業

ホクコーの農薬製品は全農を通してJA等で販売される。そのためJAで作成する防除暦(農薬の使用時期や種類などが記されているもの)や注文書に当社の製品が載ることが重要だ。しかし、ただ載っているだけでは不十分で、そこから生産者の方に当社の製品を選んでもらわなければならない。そのために、日常的にJAの担当者と一緒に生産者を巡回し、交流を深めることも大切だ。



4 技術営業

技術営業担当者は技術面から営業担当者をサポートし、自社農薬の普及促進を図っていくことが主な使命。そのため、都道府県の農業試験場やその出先機関である普及センター(病害虫防除所など)を訪ね、自社農薬の特性や効果、散布方法などを説明し、実際に試験場で効果を確かめてもらうことが大切だ。



3 製造技術

工場において、1,000~15,000L規模の反応缶を使い、24時間、365日連続操業で種々の化学製品を効率的かつ安全に、環境に配慮しながら製造している。皆さんのいる研究室とは全く異なるスケールだと思いが、「反応→分析→単離」という基本的な流れは変わらない。



4 設備

PICK UP

工場内には、たくさんの機械があり、電気設備の保全修繕を行ったり、設備計画の策定や実施、高圧受変電設備の管理、エネルギーの安定供給などを担っている。設備業務の領域は広く、建物や製造機械、計装、配管など工場すべての固定資産を含む。自分の頭で考えたものを形にできる仕事である。



PICK UP

設備の仕事は、簡単にいうとモノ作りのためのプロセス開発である。より効率的な生産設備を実現するために、プロセスを検証し、技術を確立すること、不具合箇所を改善することが使命となる。